

NEWS RELEASE

2019年2月1日

日本豆乳協会

SOY1901

日本豆乳協会

2018年1年間の豆乳類の生産量が362,794kℓを達成、 過去最高の生産量を記録

～ 毎年平均、着実な伸びを継続し、この10年間で、2倍超の市場へと成長 ～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：重山 俊彦 キッコーマンソイフーズ株式会社 取締役会長、事務局長：川村良弘、以下豆乳協会）では、2018年1-12月期における豆乳市場の動向について検証したところ、豆乳類全体の生産量は362,794kℓとなり、前年と比べ、6.9%増を記録し、豆乳を中心に市場が伸長しており、2008年に162,979kℓであった豆乳市場が、この10年間で2倍を超え、急速、かつ確実に、生活者において豆乳類の摂取が浸透していることを確認しました。

また、豆乳協会では、四半期毎に国内豆乳生産量を検証しており、2018年10月-12月期においては、92,723kℓ（107.2%）となりました。豆乳類を分類別に見ると、最も伸び率が高いのは、紅茶や抹茶などに代表されるフレーバー系の「その他豆乳飲料」で、生産量は14,673kℓ、25.6%増となりました。また、「果汁入り豆乳飲料」の生産量も大きく増え、3,695kℓ（110.0%）を記録しました。さらに、「豆乳（無調整）」は、25,554kℓ（109.7%）、また、生産量が最も多い「調製豆乳」は、48,795kℓ（101.3%）となり、すべてのカテゴリーにおいて、生産量は順調に拡大しており、出荷量においても生産量と同様の傾向を示しました。

豆乳協会では、10-12月期において、25.6%増を記録した豆乳飲料は、メーカー各社が、「紅茶」や「焼き芋」などの新作や季節性の高い商品を数多く流通させ、リピーターが拡大したことが要因であると考えます。特に、夏場に豆乳飲料を凍らせてアイスとして食べた新しい愛飲者が、新たな豆乳飲料に興味を示し、さらなる商品の購入につながっています。また、豆乳（無調整）や調製豆乳においては、生活者が、日常的に鍋や料理に加え、コーヒーや紅茶等にも気軽に使用するようになってきたことことが、市場成長の要因と考えています。

豆乳協会では、2020年には、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を4ℓに増加させ（2015年2.4ℓ / 総人口12,700万人）、年間総生産量を50万kℓにすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発・啓蒙活動を展開していきます。

（参考）

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和54年9月1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

（株）VA インターナショナル
田中/平井

TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017